

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名：鹿児島地域振興局農政普及課日置市駐在

課題名③ 地域の特性を生かした花き(ソリダゴ)の産地づくり						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適當	要改善		
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	2	1			
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	1	2			
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	1	1	1	・JAと選荷方法にズレがある。 ・出荷計画が出ていない?	・JAの選花基準と経済連の出荷許容範囲との すり合わせのため技術部会で検討を進める。 ・出荷計画ではなく年間栽培計画を新規の方々 には作成してもらうように誘導していく。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	1	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか		2	1		
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか		3			
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	2			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	1	2			

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：鹿児島地域振興局農政普及課日置市駐在

課題名③ 地域の特性を生かした花き(ソリダゴ)の産地づくり						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適当	概ね適當	要改善		
課題の設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	2	2		公社としての研修品目なので、非常に重要	ソリダゴは地域の重要な品目であるので、重点課題として、今後も取り組む。
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3	1		新規の方の底上げが必要	産地振興に生産量確保は重要であり、そのためのポイントが新規生産者の底上げであるので、継続して取り組む。
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	2	2			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	1			
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	1			
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	2	2			
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	2			
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	2			

地域の特性を生かした 花き（ソリダゴ）産地づくり



鹿児島地域振興局農政普及課

普及活動の背景

○ソリダゴは...

- ・キク科の切り花。
- ・年2～3回収穫できる省力品目。
- ・周年出荷で安定収入可能。

○JAさつま日置管内では....

- ・平成6年頃、栽培開始。
- ・平成16年度1億円産地まであと一歩まで成長。
- ・平成17年より(公社)日置市農業公社が研修生受け入れ、就農を支援
- ・現在、JA部会員14戸

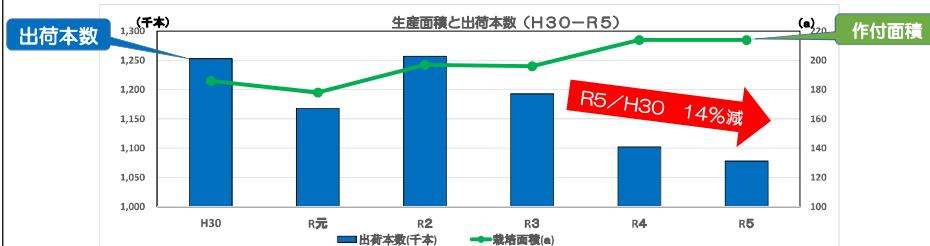
内公社修了生11戸

JAさつま日置のソリダゴ栽培地域



1

産地の課題



作付け面積は微増 → 出荷本数は減少

平均単収が低い

2

産地の課題 その要因

各生産者の単収の分布

単収の階級分布

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
100,000本以上	●		●			
90,000本台	●	●		●		
80,000本台	●	●	●	●	●	●
70,000本台	●	●	●	●		
60,000本台	●	●	●	●	●	●
50,000本台	●	●	●		●	●
40,000本台	●	●	●	●	●	●
30,000本台	●		●	●	●	●
20,000本台		●	●	●	●	●

- ・常に80,000本以上を維持
- ・ベテラン生産者群

- ・60,000-70,000本を維持
- ・ただし、ブレが大きい
- ・中堅生産者群

- ・50,000本未満
- ・新規生産者群

3

産地の課題 その要因

新規生産者の単収（本/1000m²）

生産者	年	面積	単収	前年比
E	R 4	16.0	52,930	119.8%
	R 5	16.2	63,402	
K	R 4	15.0	34,300	76.3%
	R 5	15.0	26,168	
J	R 4	16.0	41,813	52.3%
	R 5	24.0	21,856	
H	R 4	10.0	43,002	70.0%
	R 5	10.0	30,081	
I	R 4	9.0	21,239	105.6%
	R 5	9.0	22,421	
R 4 平均		66.0	38,657	84.8%
R 5 平均		74.2	32,786	

4

目標達成に向けた活動計画

1 関係機関が連携した技術・経営支援体制の充実

- ・新規生産者の課題解決支援
- ・新規就農に向けた施設の確保

2 計画的年間出荷体制づくり

- ・年間出荷計画の作成
- ・目標達成に向けた実践支援

3 安定的出荷量の確保

- ・生理障害及び害虫防除対策実践支援による単収の向上
- ・新規栽培者の栽培管理技術の高位平準化支援

6

普及活動の目標

産地の維持・拡大を図るために

「新規生産者」の支援体制充実

- ・各新規生産者の課題整理
 - ・関係機関の情報共有
- ↓
- ・課題解決に向けた連携した支援

単収の向上

作付面積1,000m²あたりの年間出荷本数目標
 <新規の栽培者> まず 50千本

5

課題解決に向けた取組

1 関係機関が連携した技術・経営支援体制の充実

★関係機関と連携した新規生産者へのヒアリング

- ・目標設定、経営規模、労働力、栽培技術についてヒアリングを実施
- ・「労力不足で適期管理ができない」、「施設がない」等の課題を明確化し、関係機関で共有

★公社修了生の現地巡回と支援方策検討

- ・公社修了生のハウスを関係機関で巡回し、栽培管理状況を確認
- ・新規生産者の課題を共有、解決方策を検討、連携したコンサルテーションの実施

★新規生産者の施設確保

- ・市（吹上支所）と農業委員が連携し、遊休施設情報収集、地権者との橋渡の実践

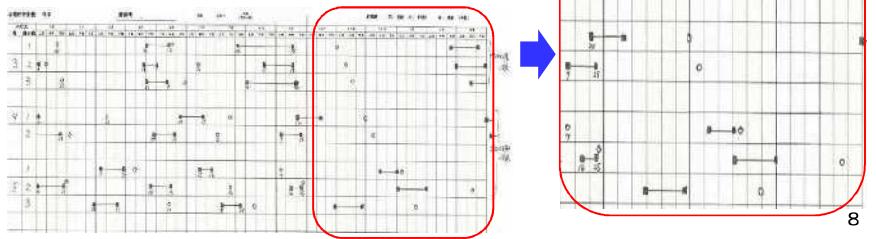
7

課題解決に向けた取組

2 計画的年間出荷体制づくり

★新規生産者の年間出荷計画の作成

- 新規生産者に前半の生産実績と後半の出荷計画の作成を誘導
- 計画を基に実践を支援・確認



課題解決に向けた取組

2 計画的年間出荷体制づくり

★出荷実績の検討

- R6年産ソリダゴの生産実績（JA出荷実績）の等級・階級・月別のデータ取りまとめ
- 過年度出荷実績との比較・解析の実施

R6年月別出荷量		
	R4年	R6/R4
1月	66,050	68,580 112.0%
2月	47,670	48,710 108.6%
3月	74,800	70,080 108.8%
4月	186,040	126,970 107.1%
5月	165,280	155,730 106.1%
6月	97,850	124,790 78.4%
7月	93,580	120,040 78.0%
8月	78,700	117,080 67.2%
9月	94,870	98,980 101.1%
10月	65,300	65,760 99.3%
11月	73,780	60,820 91.6%
12月	44,870	45,200 107.6%
合計	107,6730	110,2390 97.5%
平均	88,851	89,318 98.7%

2023年度の現状

- 2023年の2・3月、10・11月の出荷量は、R4年と同程度だったが、R3・2年より落ち込みが大きい。
- 单収が年々低下している。
- 収穫後に、次の栽培を開始するまでの期間が長い場合がある。
①夏場の高温のため、株枯れが大量に発生し、種が確保できず、次作の苗が不足し、次作を飛ばす場合もあった。
- 生育不揃い
①前作の収穫不揃い（苗の不揃い→種の不足→株枯れ）
②水分管理の失敗（かん水不足や過剰）
- 生理障害
①株枯れ：7月以降収穫株を中心に行な。高温の影響大。
②つぶれ：低温管理が主。強台刈りや過剰かん水流
③葉色悪化：12月収穫直前

9

課題解決に向けた取組

2 計画的年間出荷体制づくり

経営計画シミュレーション

★新規生産者の経営計画作成

- 資金償還計画を踏まえた経営計画の作成
- 将来経営に向け規模拡大等を加味したシミュレーションの実施

貯蔵庫枚	65000	68000	70000	75000	80000
年間収入	1年目(R4)	2年目(R5)	3年目(R6)	4年目(R7)	5年目(R10)
販売額(円)	6,800,000	15,880,000	15,180,000	15,500,000	17,280,000
経常費用	18	48	48	48	48
ソリダゴ	104,000	81,000	88,000	80,000	84,000
施設費(円)	4,640,000	14,040,000	15,120,000	15,500,000	17,280,000
その他(次年度作物貯蔵費)	1,125,000	8,820,000			
貯蔵費(円)	3,601,889	10,608,887	10,833,787	11,308,707	11,783,887
原資料費	684,887	1,478,071	1,878,071	1,878,071	1,478,071
機器費	73,414	320,343	320,343	230,343	230,343
農業税	77,288	231,884	231,884	231,884	231,884
農業税	166,887	465,781	465,781	465,781	465,781
機械料費	28,718	85,148	86,148	86,148	86,148
機械光熱費	168,242	666,028	666,028	666,028	666,028
施設・備品費	42,202	126,600	126,600	126,600	126,600
農業税	90,882	91,882	91,882	91,882	91,882
耕種費	11,470	98,010	86,010	86,010	86,010
試験研究費	66,771	841,200	1,488,348	1,488,348	1,488,348
出荷準備費	1,874,644	8,828,880	8,946,880	8,733,880	8,788,720
圃場開発費	0	1,048,440	1,048,440	1,048,440	1,048,440
支払地代	68,848	98,870	98,870	98,870	98,870
零用金	680,000	980,000	980,000	980,000	980,000
その他	687,880	1,241,220	1,241,220	1,241,220	1,241,220
農業税	8,148,801	8,781,188	4,199,318	4,641,398	8,488,372
耕作指導料	8,773,301	6,741,182	8,146,218	8,801,298	8,488,372
農業機械料(実費分)	780,000	1,180,000	1,180,000	1,180,000	1,247,000

10

課題解決に向けた取組

2 計画的年間出荷体制づくり

★出荷実績の検討

- R6年産ソリダゴの生産実績（JA出荷実績）の等級・階級・月別のデータ取りまとめ
- 過年度出荷実績との比較・解析の実施

R6年月別出荷量		
	R4年	R6/R4
1月	66,050	68,580 112.0%
2月	47,670	48,710 108.6%
3月	74,800	70,080 108.8%
4月	186,040	126,970 107.1%
5月	165,280	155,730 106.1%
6月	97,850	124,790 78.4%
7月	93,580	120,040 78.0%
8月	78,700	117,080 67.2%
9月	94,870	98,980 101.1%
10月	65,300	65,760 99.3%
11月	73,780	60,820 91.6%
12月	44,870	45,200 107.6%
合計	107,6730	110,2390 97.5%
平均	88,851	89,318 98.7%

2023年度の現状

- 2023年の2・3月、10・11月の出荷量は、R4年と同程度だったが、R3・2年より落ち込みが大きい。
- 单収が年々低下している。
- 収穫後に、次の栽培を開始するまでの期間が長い場合がある。
①夏場の高温のため、株枯れが大量に発生し、種が確保できず、次作の苗が不足し、次作を飛ばす場合もあった。
- 生育不揃い
①前作の収穫不揃い（苗の不揃い→種の不足→株枯れ）
②水分管理の失敗（かん水不足や過剰）
- 生理障害
①株枯れ：7月以降収穫株を中心に行な。高温の影響大。
②つぶれ：低温管理が主。強台刈りや過剰かん水流
③葉色悪化：12月収穫直前

9

課題解決に向けた取組

3 安定的出荷量の確保

★現地検討会の実施

- 株枯れ対策
- 電照時間
- コナジラミ防除
- 年間栽培計画
- 土壤分析と施肥改善



★栽培講習会の開催

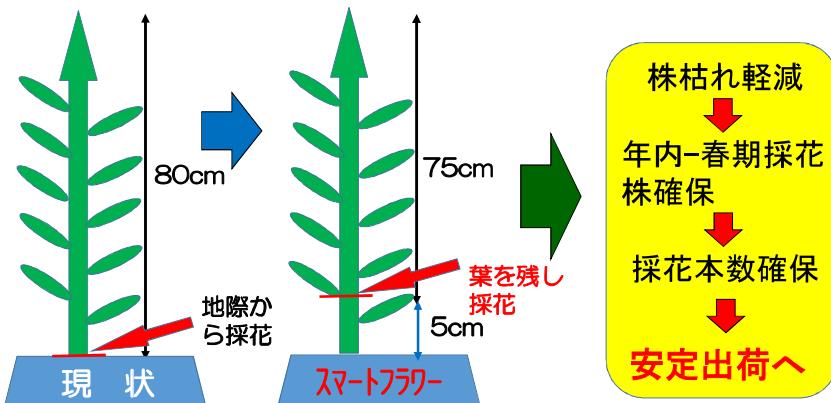
- 栽培基準表
- 株枯れ対策
- コナジラミ防除
- 良質苗確保
- 土壤診断

スマート
フラワー
(75cm)
の提案



11

スマートフラワーとは



12

「安定的出荷量の確保」に向けた株枯れ対策

生産者からの意見（スマートフラワー化へ）

- 夏期は草丈が伸びない（地際から採花で80cm確保）⇒ 台刈りを高くできない
- 夏期の株枯れは、冬期の生産に影響する
- 採花を75cm規格にできれば、台刈り位置を確保できる
- 冬期の生産安定につながる

販売面からの対策実践へ

- 出荷基準を75cmへ
- J A, 経済連を通して市場, 実需者との調整 ⇒ 流通対策会議にて市場代表者と協議
- 出荷基準を通年75cm

14

「安定的出荷量の確保」の阻害要因とその対策

★高温期の株枯れ

①多発する条件

【環境条件】 高温

- ①収穫時の刈込位置が低い
- ②長い植え替え周期（2～7年間隔）
- ③過剰施肥による高い土壤EC



②実証拠からの対策

- ①地上部を残す台刈り
- ②年1回植え替えを基本とした作付体系
- ③高ECほ場の除塩

③生産者への普及

- ・葉が残る5～10cmの台刈り
- ・据置株利用では完全な抑制は困難 ⇒ 年1回夏場の植え替え推進
- ・施肥の適正化

13

普及活動のまとめ(目標と成果)

目標

「新規の栽培者」の支援体制充実

★農業公社を中心に関係機関一体となった、新規生産者への指導支援体制ができつつある。

★施設確保については、市支所・農業委員の連携による斡旋体制ができつつある。

成果

★新規生産者が自分の課題を再認識し、その対策に取り組んだ。

★新規生産者が資金償還計画を踏まえた経営計画に作成や、将来の経営シミュレーションを進めている。

15

普及活動のまとめ(目標と成果)

目標

単収の向上 <新規の栽培者> 50千本/1,000m²

成果

★目標単収を達成(新規の栽培者: 1名)

★スマートフラワーへの取組みが生産安定につながると生産者から提案され、関係機関や市場などでの検討が始まった。



期待・希望

★採花本数の増加

★夏期の株枯れ軽減 → 採花株確保



★生産量の確保・安定的出荷達成

16



18

今後の普及活動に向けて(残された課題)

1 「新規栽培者」の支援活動

- 関係機関一体となった支援活動の定例化と役割分担の明確化
- 施設確保体制の充実

2 計画的年間出荷体制づくり

- 年間出荷計画作成の習慣化
- 各新規生産者に必要な生産・経営技術の具体的支援の実施

3 安定的出荷量の確保

- 「高単収生産者」の栽培技術を見える化・波及
- 「地域栽培基準」の見直し
- 「スマートフラワー」の実現に向け、関係機関と連携し情報収集

17